

社会基盤工学専攻

＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等	
主 専 攻 科 目	基礎科目	社会基盤工学のフロンティア	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期(必修)	
		社会基盤工学総合プロジェクトA	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期(選択必修)	
		社会基盤工学総合プロジェクトB	社会基盤工学専攻各教員	2	1年後期(選択必修)	
		社会基盤工学総合プロジェクトC	社会基盤工学専攻各教員	2	2年前期(選択)	
		環境コミュニケーション	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年前期(選択必修)	
		持続可能性と環境学	Victor Muhandiki 寄附講座教授(代表)	2	1年後期(選択必修)	
	主 分 野 科 目	セ ミ ナ ー	構造工学セミナー1A	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年前期
			構造工学セミナー1B	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年後期
			構造工学セミナー1C	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年前期
			構造工学セミナー1D	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年後期
			材料・形態学セミナー1A	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年前期
			材料・形態学セミナー1B	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年後期
			材料・形態学セミナー1C	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年前期
			材料・形態学セミナー1D	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年後期
			海岸・海洋工学セミナー1A	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年前期
			海岸・海洋工学セミナー1B	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年後期
			海岸・海洋工学セミナー1C	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	2年前期
			海岸・海洋工学セミナー1D	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	2年後期
			流域保全学セミナー1A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期
			流域保全学セミナー1B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期
			流域保全学セミナー1C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期
			流域保全学セミナー1D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期
			地盤環境学セミナー1A	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年前期
			地盤環境学セミナー1B	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年後期
			地盤環境学セミナー1C	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年前期
			地盤環境学セミナー1D	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年後期
			国土防災安全工学セミナー1A	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年前期
			国土防災安全工学セミナー1B	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年後期
			国土防災安全工学セミナー1C	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年前期
			国土防災安全工学セミナー1D	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年後期
			地圏環境保全学セミナー1A	片山 新太 教授	2	1年前期
			地圏環境保全学セミナー1B	片山 新太 教授	2	1年後期
			地圏環境保全学セミナー1C	片山 新太 教授	2	2年前期
			地圏環境保全学セミナー1D	片山 新太 教授	2	2年後期
			社会基盤計画学セミナー1A	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	1年前期
			社会基盤計画学セミナー1B	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	1年後期
			社会基盤計画学セミナー1C	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	2年前期
			社会基盤計画学セミナー1D	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	2年後期
			社会基盤維持管理学セミナー1A	鎗石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	1年前期
			社会基盤維持管理学セミナー1B	鎗石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	1年後期
			社会基盤維持管理学セミナー1C	鎗石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	2年前期
			社会基盤維持管理学セミナー1D	鎗石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	2年後期
			国際環境協力セミナー1A	林 希一郎 教授	2	1年前期
			国際環境協力セミナー1B	林 希一郎 教授	2	1年後期
			国際環境協力セミナー1C	林 希一郎 教授	2	2年前期
			国際環境協力セミナー1D	林 希一郎 教授	2	2年後期
			国際環境人材育成セミナー1A	永石 雅史 特任教授, 中野 綾子 特任助教	2	1年前期
			国際環境人材育成セミナー1B	永石 雅史 特任教授, 中野 綾子 特任助教	2	1年後期
	国際環境人材育成セミナー1C	永石 雅史 特任教授, 中野 綾子 特任助教	2	2年前期		
	国際環境人材育成セミナー1D	永石 雅史 特任教授, 中野 綾子 特任助教	2	2年後期		
インフラ技術開発・移転セミナー1A	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 榎尾 正也 寄附講座准教授	2	1年前期			
インフラ技術開発・移転セミナー1B	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 榎尾 正也 寄附講座准教授	2	1年後期			
インフラ技術開発・移転セミナー1C	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 榎尾 正也 寄附講座准教授	2	2年前期			
インフラ技術開発・移転セミナー1D	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 榎尾 正也 寄附講座准教授	2	2年後期			
講 義	講 義	連続体力学特論	中野 正樹 教授, 野田 利弘 教授	2	1年前期	
		数値解析特論	山本 俊行 教授, 戸田 祐嗣 准教授, 北根 安雄 准教授, 中井 健太郎 准教授	2	1年前期	
		変動地形学特論	鈴木 康弘 教授	2	1年後期	

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等	
主 専 攻 科 目	主 分 野 科 目	土水環境保全学特論	片山 新太 教授	2	1年前期	
		複合材料科学特論	中村 光 教授	2	1年前期	
		コンクリート構造学特論	國枝 稔 准教授	2	1年後期	
		構造力学特論	北根 安雄 准教授	2	1年後期	
		固体力学特論	北根 安雄 准教授	2	1年前期	
		海洋力学特論	川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年前期	
		海工学特論	水谷 法美 教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年後期	
		流域圏管理学特論	辻本 哲郎 教授	2	1年前期	
		河川計画・河道設計学特論	戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期	
		地盤工学特論	山田 正太郎 准教授, 非常勤講師	2	1年後期	
		地盤力学特論	中野 正樹 教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授, 非常勤講師	2	1年前期	
		地盤動力学特論	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 非常勤講師	2	1年後期	
		交通工学特論	中村 英樹 教授	2	1年前期	
		社会基盤計画学特論	森川 高行 教授, 山本 俊行 教授	2	1年後期	
		都市計画特論	加藤 博和 准教授	2	1年前期	
		基盤情報学特論	伊藤 義人 教授	2	1年後期	
		都市基盤維持管理学特論	籠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授	2	1年前期	
		途上国開発特論 I	林 希一郎 教授	2	1年後期	
		途上国開発特論 II	各教員 (社会基盤)	2	2年後期	
		低炭素都市学	谷川 寛樹 教授, 一ノ瀬 俊明 特任教授, Shobhakar Dhakal 特任准教授	2	1年前期	
		水・廃棄物政策論	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年前期	
		生物多様性保全政策概論	渡邊 幹彦 非常勤講師	2	1年前期 (夏季集中)	
		環境資源論	永石 雅史 特任教授, 非常勤講師	2	1年前期	
		気候変動政策論	未定	2	1年後期	
		水・廃棄物工学	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年後期	
		生物資源管理政策論	非常勤講師	2	1年後期	
		生物資源管理プロジェクト論	永石 雅史 特任教授	2	1年後期	
		環境産業システム論	永石 雅史 特任教授, 中野 綾子 特任助教	2	1年後期	
		演 習	固体力学演習	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	1	1年後期
			複合材料科学演習	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	1	1年後期
			海工学演習	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	1	1年後期
			流れ・地形解析学演習	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授, 田代 喬 准教授	1	1年前期
			地盤解析学演習	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授, 野々山 栄人 助教	1	1年前期
地盤動力学演習	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教		1	1年後期		
社会基盤計画学演習	加藤 博和 准教授, 三輪 富生 准教授		1	1年前期		
基盤情報学特論演習	伊藤 義人 教授, 廣畑 幹人 助教		1	1年前期		
社会基盤維持管理学演習	籠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授		1	1年後期		
土水環境保全学演習	片山 新太 教授		1	1年後期		
生物資源管理学実習	永石 雅史 特任教授		1	後期		
グローバル研究インターンシップ	NUGELP特任教員		2	随時		
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習		当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			
総合工学科目	高度総合工学創造実験	次年度教務委員長	3	1年前期後期, 2年前期後期		
	研究インターンシップ 1	次年度教務委員長	2~8	1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学特論	永野 修作 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学実験	永野 修作 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1	1年後期, 2年後期		
	実践科学技術英語	未定	2	1年前期, 2年前期		
	科学技術英語特論	非常勤講師	1	1年後期, 2年後期		
	ベンチャービジネス特論 I	永野 修作 准教授	2	1年前期, 2年前期		
	ベンチャービジネス特論 II	永野 修作 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2	1年後期, 2年後期		
	学外実習 A	各教員 (社会基盤)	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	国際プロジェクト研究	各教員	2~4	1年前期後期, 2年前期後期		
	国際協働教育特別講義	未定	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	国際協働教育外国語演習	未定	1	1年前期後期, 2年前期後期		
他研究科等科目	本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、大学院共通科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目					
研究指導						
履修方法および研究指導						
1. 以下の一〜三の各項を満たし、合計30単位以上						
一 主専攻科目:						
イ 基礎科目 6 単位以上						
ロ 主分野科目の中から、セミナー 8 単位、講義 6 単位、実験・演習 1 単位を含む 16 単位以上						
二 副専攻科目及び他研究科等科目の中から 2 単位以上						
三 総合工学科目は 4 単位までを修了要件単位として認め、4 単位を超えた分は随意科目の単位として扱う						
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること						

社会基盤工学専攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	七 ミ ナ ー	構造工学セミナー2A	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年前期
		構造工学セミナー2B	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年後期
		構造工学セミナー2C	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年前期
		構造工学セミナー2D	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年後期
		構造工学セミナー2E	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	3年前期
		材料・形態学セミナー2A	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年前期
		材料・形態学セミナー2B	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年後期
		材料・形態学セミナー2C	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年前期
		材料・形態学セミナー2D	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年後期
		材料・形態学セミナー2E	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	3年前期
		海岸・海洋工学セミナー2A	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年前期
		海岸・海洋工学セミナー2B	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	1年後期
		海岸・海洋工学セミナー2C	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	2年前期
		海岸・海洋工学セミナー2D	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	2年後期
		海岸・海洋工学セミナー2E	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 中村 友昭 特任講師	2	3年前期
		流域保全学セミナー2A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期
		流域保全学セミナー2B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期
		流域保全学セミナー2C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期
		流域保全学セミナー2D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期
		流域保全学セミナー2E	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	3年前期
		地盤環境学セミナー2A	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年前期
		地盤環境学セミナー2B	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年後期
		地盤環境学セミナー2C	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年前期
		地盤環境学セミナー2D	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年後期
		地盤環境学セミナー2E	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	3年前期
		国土防災安全工学セミナー2A	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年前期
		国土防災安全工学セミナー2B	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年後期
		国土防災安全工学セミナー2C	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年前期
		国土防災安全工学セミナー2D	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年後期
		国土防災安全工学セミナー2E	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	3年前期
		地圏環境保全学セミナー2A	片山 新太 教授	2	1年前期
		地圏環境保全学セミナー2B	片山 新太 教授	2	1年後期
		地圏環境保全学セミナー2C	片山 新太 教授	2	2年前期
		地圏環境保全学セミナー2D	片山 新太 教授	2	2年後期
		地圏環境保全学セミナー2E	片山 新太 教授	2	3年前期
		社会基盤計画学セミナー2A	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	1年前期
		社会基盤計画学セミナー2B	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	1年後期
		社会基盤計画学セミナー2C	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	2年前期
		社会基盤計画学セミナー2D	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	2年後期
		社会基盤計画学セミナー2E	中村 英樹 教授, 山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授, 浅野 美帆 助教	2	3年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー2A	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授		
		インフラ技術開発・移転セミナー2B	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授		
		インフラ技術開発・移転セミナー2C	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授		
		インフラ技術開発・移転セミナー2D	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授		
		インフラ技術開発・移転セミナー2E	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主専攻科目	セミナー	社会基盤維持管理学セミナー2A	館石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	1年前期
		社会基盤維持管理学セミナー2B	館石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	1年後期
		社会基盤維持管理学セミナー2C	館石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	2年前期
		社会基盤維持管理学セミナー2D	館石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	2年後期
		社会基盤維持管理学セミナー2E	館石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 崔 誠珉 助教	2	3年前期
		国際環境協力セミナー2A	林 希一郎 教授	2	1年前期
		国際環境協力セミナー2B	林 希一郎 教授	2	1年後期
		国際環境協力セミナー2C	林 希一郎 教授	2	2年前期
		国際環境協力セミナー2D	林 希一郎 教授	2	2年後期
		国際環境協力セミナー2E	林 希一郎 教授	2	3年前期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			
総合工学科目		実験指導体験実習1	次年度教務委員長	1	1年前期後期 2年前期後期
		実験指導体験実習2	永野 修作 准教授	1	1年前期後期 2年前期後期
		研究インターンシップ2	次年度教務委員長	2~8	1年前期後期 2年前期後期
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、大学院共通科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部/部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目			
研究指導					
履修方法及び研究指導					
1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上					
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること					

6. 社会基盤工学専攻

<社会基盤工学分野>

社会基盤工学のフロンティア (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	各教員 (社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 本講義では、主として社会基盤工学専攻の教員が現在取り組んでいる研究、プロジェクト、あるいはその領域で問題になっている事柄・事例の紹介を行う。それによって、現在、社会基盤工学に関する研究の最前線を学び、それらを総合した社会基盤工学の枠組みを自らの専門範囲を超えて各々が考える。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし</p> <p>●授業内容 1. ガイダンス 2. 構造力学分野の最前線 \ 3. 材料工学分野の最前線 \ 4. 海岸工学分野の最前線 \ 5. 河川工学分野の最前線 \ 6. 地盤工学分野の最前線 \ 7. 都市計画・交通計画分野の最前線 \ 8. 衛生工学・環境工学分野の最前線</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間内に質問を歓迎する。</p>	

社会基盤工学総合プロジェクトA (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	各教員 (社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 第一線で活躍されている学外講師からの講義を通して、領域横断的な研究分野やその諸問題に可能な限り接するとともに、その分野の諸問題を自ら主体性を持って考え、そして解決する能力を高めることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし</p> <p>●授業内容 1. ガイダンス 2. 7名の外部講師からの講義・講演 3. (講演各回について) 学生を主体とした質疑応答</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間内の質問を歓迎する。</p>	

社会基盤工学総合プロジェクトB (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	各教員 (社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 社会基盤工学に関連する特定のテーマを設定し、これに関した一連の発表、討議を通して、最終的には、講義受講者全体で一つのレポートを纏め上げることを課題とする。最終的な成果のみでなく、課題のしぼりこみ、それに関する発表、討議、そしてそれをまとめていく一連の作業自体が講義の目的そのものでもある。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 社会基盤工学のフロンティア、社会基盤工学総合プロジェクトA</p> <p>●授業内容 チームごとに社会基盤工学にかかわる種々の解決問題について調じ、問題提起を行うとともにその対策について討論する。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間内の質問を歓迎する。</p>	

社会基盤工学総合プロジェクトC (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	各教員 (社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 第一線で活躍されている学外講師からの講義を通して、領域横断的な研究分野やその諸問題に可能な限り接するとともに、その分野の諸問題を自ら主体性を持って考え、そして解決する能力を高めることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 社会基盤工学総合プロジェクトA,B</p> <p>●授業内容 1. ガイダンス 2. 7名の外部講師からの講義・講演 3. (講演各回について) 学生を主体とした質疑応答</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義時間内の質問を歓迎する。</p>	

環境コミュニケーション (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境問題について英語で学び、考える能力を育成し、その能力をプレゼンテーション、または議論を英語でするために生かす。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 環境問題は一つの国固有の問題でないで、環境学を学び、これを実践していくためには国際的なコミュニケーション能力が必要不可欠となる。本講義では、国際的なコミュニケーション言語として英語を取り上げ、さまざまな環境問題について分析し英語で政策提言し討論を行う。自らの主張を訴え説得する国際的なコミュニケーション能力を高めることを目指す。</p> <p>授業内容 ・討論テーマの決定と資料収集 ・プレゼンテーション資料の作成 ・プレゼンテーション及び討論 ・最終レポートの作成 討論テーマの一例 ・地球環境問題 ・水・廃棄物管理 ・エネルギー問題 ・都市交通</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 プレゼンテーションの内容、ディスカッションへの貢献度とレポートによって評価する。授業への出席率が80%未満の者は不可とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応：講義終了時に対応する。 担当教員連絡先：内線 6495 victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp \</p>	

持続可能性と環境学 (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境問題を考える上での最も重要な概念の一つである「持続可能性 (sustainability)」について、その解釈や評価基準を、環境学 (environmental studies) という分野の中での位置づけを整理しながら理解する。達成目標: 1. 持続可能性および環境学について 1) 社会/社会科学、2) 自然科学的知見、3) 都市空間の3つの視点から理解し、説明できる。: 2. 持続可能性に「安全」という概念を含めて説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 低炭素都市学、水・廃棄物政策論、など。</p> <p>●授業内容 持続可能性と環境学について、以下の3つの観点から、複数の教官により、15回分の講義が実施される。1. 環境の持続可能性に関する科学的見地からの現状理解、2. 持続可能性をめぐる環境の評価・分析の方法論や事例、3. 都市空間の環境・インフラの持続可能性</p> <p>●教科書 初回の講義に紹介するとともに、講義資料を配付する。</p> <p>●参考書 講義の進行に合わせて適宜紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 レポート (100%) 毎出席して、次回の予定について指示に従うことが必須である。また、講義は、基本的に、英語で行われる。授業への出席率が80%未満の者は不可とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員連絡先：内線 6495 victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp:</p>	

構造工学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容 1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業中に質問に対応する。</p>	

構造工学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容 1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中で対応する。</p>	

構造工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

材料・形態学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。
- バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)
- 授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases
- 教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford
- 参考書
特になし
- 評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。
- 〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料・形態学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。
- バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)
- 授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases
- 教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford
- 参考書
特になし
- 評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。
- 〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

材料・形態学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中村 光 教授 園枝 稔 准教授	

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試験の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中村 光 教授 園枝 稔 准教授	

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試験の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

海産・海洋工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目
●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp), 中村 (747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp)

海産・海洋工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目
●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp), 中村 (747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp)

—— 海岸・海洋工学セミナー1C (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師	

- 本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。
- バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論, 海工学特論, 海工学演習
- 授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。
- 教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。
- 参考書
指定はしない。
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp）、中村（747-6519 or 4634, tnakamura@nagoya-u.jp）

—— 海岸・海洋工学セミナー1D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師	

- 本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。
- バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論, 海工学特論, 海工学演習
- 授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。
- 教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。
- 参考書
指定はしない。
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp）、中村（747-6519 or 4634, tnakamura@nagoya-u.jp）

—— 流域保全学セミナー1A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
河川工学, 流域水文学, 開水路水理学, 水理学, 人間活動と環境
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 \ 3. 流出・土砂生産 \ 4. 河道のプロセス \ 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—— 流域保全学セミナー1B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念：2. 河川・流域景観の構成：3. 流出・土砂生産：4. 河道のプロセス：5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

流域保全学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

流域保全学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地盤環境学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授	山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。: 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。: 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。: 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。: 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析特論
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理: 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下: 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下: 4. 泥岩のスレーキングとその対策: 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述: 6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応: セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中野 正樹 教授	山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。: 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。: 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。: 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。: 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析学特論
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理: 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下: 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下: 4. 泥岩のスレーキングとその対策: 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述: 6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。:
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応: セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動との特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動との特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習、数値解析学特論
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法及び基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。：
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動との特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動との特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習、数値解析学特論
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法及び基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。：
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：セミナー時に対応する。

国土防災安全工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教	

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎：2. 地盤構造物の変形・安定性：3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法：4. 地盤補強・改良工法の設計：5. 耐震工学の基礎：6. 地震入力：7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法及び基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教	

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎：2. 地盤構造物の変形・安定性：3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法：4. 地盤補強・改良工法の設計：5. 耐震工学の基礎：6. 地震入力：7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法及び基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容

1. 軟弱地盤力学の基礎:
2. 地盤構造物の変形・安定性:
3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:
4. 地盤補強・改良工法の設計:
5. 耐震工学の基礎:
6. 地震入力:
7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書

必要に応じて、プリント配布

●参考書

●評価方法と基準

セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問は随時E-mailで受け付ける。

(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容

1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書

必要に応じて、プリント配布

●参考書

●評価方法と基準

セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問は随時E-mailで受け付ける。

(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

地圏環境保全学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。:達成目標: 下記の二つの課題について理解し、説明できる。:1. 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム:2. 土壌地下水汚染物質の運命:3. 生物浄化技術および関与する微生物:4. 廃棄物処理(無害化・リサイクル技術等)

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学

●授業内容

土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、発表と討論を行う。

●教科書

各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。

●参考書

●評価方法と基準

論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。:達成目標: 下記の二つの課題について理解し、説明できる。:1. 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム:2. 土壌地下水汚染物質の運命:3. 生物浄化技術および関与する微生物:4. 廃棄物処理(無害化・リサイクル技術等)

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A

●授業内容

土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。

●教科書

各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。

●参考書

●評価方法と基準

論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	片山 新太 教授	

- 本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標 下記の内、3つの課題について理解し、説明できる。1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム 2.土壌地下水汚染物質の運命 3.生物浄化技術および関与する微生物 4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B
- 授業内容
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。
- 教科書
各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
- 参考書
- 評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地圏環境保全学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	片山 新太 教授	

- 本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標 下記の課題について理解し、説明できる。1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム 2.土壌地下水汚染物質の運命 3.生物浄化技術および関与する微生物 4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C
- 授業内容
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、アセスメント等について、輪講を行う。
- 教科書
各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
- 参考書
- 評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教	

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教	

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中村 英樹 教授	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中村 英樹 教授	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤維持管理学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	館石 和雄 教授	判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的にに取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	館石 和雄 教授	判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的にに取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

国際環境協力セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	林 希一郎 教授	

- 本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。
- バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学
- 授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員と交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。 毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中またはメールでコンタクト。

国際環境協力セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	林 希一郎 教授	

- 本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。
- バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A
- 授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員と交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中またはメールで。

国際環境協力セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A,1B

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールで。

国際環境協力セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A,1B,1C

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて。

国際環境人材育成セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	(未定)	

●本講座の目的およびねらい
地球環境問題に関する知識を習得し、理解を深める。気候変動、水質汚染、生物多様性を重点分野とする。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

今日、私たちは地球温暖化や気候変動、水質汚染、生物多様性の損失など、多くの環境問題に直面している。これらの問題への対策が、様々なかたちで世界中においてとられている。このセミナーでは、学生は地球環境問題と事例研究に関する掘り下げた分析をし、その結果を発表し、議論をする。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議能力により評価する。毎回必ず出席することが単位取得の要件である。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

担当教員連絡先： niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6497 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6494 \ victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6495

国際環境人材育成セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	(未定)	

●本講座の目的およびねらい
地球環境問題に関する知識を習得し、理解を深める。気候変動、水質汚染、生物多様性を重点分野とする。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

今日、私たちは地球温暖化や気候変動、水質汚染、生物多様性の損失など、多くの環境問題に直面している。これらの問題への対策が、様々なかたちで世界中においてとられている。このセミナーでは、学生は地球環境問題と事例研究に関する掘り下げた分析をし、その結果を発表し、議論をする。

●教科書

●参考書

参考URL <http://www.cbd.int/>

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議能力により評価する。毎回必ず出席することが単位取得の要件である。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

担当教員連絡先： \ niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6497 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6494 \ victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6495

——国際環境人材育成セミナー1C (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	(未定)	

- 本講座の目的およびねらい
地球環境問題に関する知識を習得し、理解を深める。気候変動、水質汚染、生物多様性を重点分野とする。 \
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
今日、私たちは地球温暖化や気候変動、水質汚染、生物多様性の損失など、多くの環境問題に直面している。これらの問題への対策が、様々なかたちで世界中においてとられている。このセミナーでは、学生は地球環境問題と事例研究に関する掘り下げた分析をし、その結果を発表し、議論をする。 \
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議能力により評価する。 毎回必ず出席することが単位取得の要件である。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 \ 担当教員連絡先: \ niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 7
tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 4 \ victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 5
 \

——国際環境人材育成セミナー1D (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	(未定)	

- 本講座の目的およびねらい
地球環境問題に関する知識を習得し、理解を深める。気候変動、水質汚染、生物多様性を重点分野とする。 \
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
今日、私たちは地球温暖化や気候変動、水質汚染、生物多様性の損失など、多くの環境問題に直面している。これらの問題への対策が、様々なかたちで世界中においてとられている。このセミナーでは、学生は地球環境問題と事例研究に関する掘り下げた分析をし、その結果を発表し、議論をする。 \
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議能力により評価する。 毎回必ず出席することが単位取得の要件である。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
担当教員連絡先: niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 7 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 4 \ victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp #6 4 9 5

——インフラ技術開発・移転セミナー1A (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	Muhandiki Victor	寄附講座教授 楢尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——インフラ技術開発・移転セミナー1B (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	Muhandiki Victor	寄附講座教授 楢尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

_____インフラ技術開発・移転セミナー1C (2.0単位)_____

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	Muhandiki Victor	寄附講座教授 檜尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

_____インフラ技術開発・移転セミナー1D (2.0単位)_____

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	Muhandiki Victor	寄附講座教授 檜尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

_____連続体力学特論 (2.0単位)_____

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授	野田 利弘 教授

- 本講座の目的およびねらい
ベクトル・テンソルの概念を復習し、運動学(運動の幾何学)、平衡則、客観性など連続体の力学について基礎的事項を理解する。
- 達成目標
1. ベクトル・テンソル解析の基礎について理解し、説明できる。
2. 運動する物体の表示法、物体の有する物理量の物質時間微分、物体の変形についてテンソルを用いた表現ができる。
3. 応力テンソルの特徴を理解し、説明できる。
4. 力学に関する各種保存則、Cauchyの運動法則の理解を理解し、連続体の力学挙動の解釈や表現へ応用できる。
- バックグラウンドとなる科目
土質力学、構造解析の基礎、力学Ⅰ、力学Ⅱ、微分積分学Ⅰ、微分積分学Ⅱ
- 授業内容
1. 連続体の定義と連続体力学の概要
2. ベクトル・テンソル解析の基礎
3. 物質の捉え方と運動法則
4. 運動、変形の記述
5. 運動法則と応力テンソル
6. 連続体力学の基礎方程式(各種保存則と支配方程式)
7. ひずみ(速度)の定義式(適合条件式)
8. 構成式と客観性
9. 有限変形理論に基づく連続体の変形の記述～初期値境界値問題を解く～
- 教科書
必要に応じて随時資料を配布する。
- 参考書
田村 武著: 連続体力学入門(朝倉書店)
最新弾塑性学: 橋口公一(朝倉書店)
地球連続体力学 岩波講座 地球惑星科学6(岩波書店)
土木工学ハンドブック 第6章 固体力学など
- 評価方法と基準
期末試験70%、課題レポートを30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
担当教員連絡先: 内線 4 6 2 2 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

_____数値解析特論 (2.0単位)_____

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	山本 俊行 教授	戸田 祐嗣 准教授 北根 安雄 准教授 中井 健太郎 准教授

- 本講座の目的およびねらい
数値解析法の基礎と具体的な手法を理解し、工学問題への応用力を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
1. 有限要素法の概念とプログラミング
2. 数値最適化手法
3. スペクトル理論とFFTの原理
4. 常微分方程式の近似解法
- 教科書
特になし、必要に応じてプリント配布。
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート 100%
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

変動地形学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	鈴木 康弘 教授	

●本講座の目的およびねらい
変動帯日本列島の自然環境や災害を理解する上で重要な変動地形学の基礎と調査法を学び、今
日的な大きな課題である低頻度巨大災害に対する防災論についても考える。

●バックグラウンドとなる科目
土木地質学、土質力学、地盤工学

●授業内容

- 授業内容
1. 発達史地形学の基礎と調査法
 - (1)地形面
 - (2)地形編年
 - (3)第四紀地形発達史

2. 活断層写真判読
 - (1)リニアメントと活断層
 - (2)地形の異常とは何か
 - (3)断層変位地形の判読例

3. 活断層地震防災（「活断層大地震に備える」を読む）
 - (1)活断層問題の本質
 - (2)活断層地震の特質
 - (3)地震発生予測
 - (4)低頻度巨大災害防災論

●教科書

活断層大地震に備える（鈴木康弘著、ちくま新書）

●参考書

発達史地形学（貝塚爽平著、東大出版会）
写真と図でみる地形学（貝塚爽平ほか編、東大出版会）
活断層地形判読—空中写真による活断層の認定—（渡辺満久・鈴木康弘著、古今書院）

●評価方法と基準

出席および最終レポートによる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

土水環境保全学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生から環境への曝露経路、その毒性と環境中での運命、その対策に関する基
礎を講義するとともに、環境基準項目や汚染浄化技術、更には廃棄物処理技術などの事例に関し
て発表討論形式で理解を深め、土や水の環境保全の考え方を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

環境地盤工学、微生物学、化学、衛生工学、毒性学、数学、土壌学、水理学

●授業内容

土壌地下水汚染を生じる化学物質の性質、その毒性と環境基準項目、生物（哺乳動物、植物、微
生物）との相互作用（暴露と代謝・分解）、環境中での運命、汚染浄化技術などに関して講説す
る。

●教科書

関連資料を配付

●参考書

環境科学入門：川合真一郎、張野宏也、山本義和（化学同人）2011
環境生物学：海野肇、松村正利、藤江幸一、片山新太、丹治保典（講談社）2002
農業の環境科学最前線：日本農業学会/上路雅子、片山新太、中村幸二、星野敏明、山本広基編
（ソフトサイエンス社）2004
地下水・土壌汚染の基礎から応用：日本地下水学会編（理工図書）2006

●評価方法と基準

口頭発表と討論能力

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義の後
もしくは
個別の対応（あらかじめ電話かemailで日時を決めて対応）

複合材料学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 光 教授	

●本講座の目的およびねらい
土木材料の代表的な複合材料であるコンクリートを取り上げ、学部での学んだ基礎的な内容に基
づき、応用的な内容として種々の時間依存性問題のメカニズムを学ぶ。
また、時間依存の影響に対する材料・施工・設計の各局面での対処方法について学ぶ、具体的な
対処方法の提案をするための総合力を見に付ける。

●バックグラウンドとなる科目

コンクリート構造第1、第2、材料工学（いずれも学部講義）

●授業内容

1. コンクリートの時間依存性問題と初期応力の発生
2. 拡散方程式の定式化と有限要素法への展開
3. コンクリートの水和発熱のメカニズム
4. コンクリートの乾燥収縮のメカニズム
5. コンクリートのクリープのメカニズム
6. RC構造物の初期ひずみ制御法

●教科書

初期応力を考慮したRC構造物の非線形解析とプログラム、田辺忠顕編、技報堂出版

●参考書

●評価方法と基準

期末試験およびレポートにより、目標達成度を評価する。
<平成23年度以降入学者>
100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F
<平成22年度以前入学者>
100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

コンクリート構造学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	国枝 稔 准教授	

●本講座の目的およびねらい
本講義の前半では、コンクリートの材料としての基本的な性質を理解し、コンクリートの破壊の
本質を学ぶ。後半では、その材料から構成されるコンクリート構造物の破壊および設計と照査の
概念について学ぶとともに、高性能なコンクリートの動向について紹介する。

●バックグラウンドとなる科目

コンクリート構造第1、第2、材料工学（いずれも学部講義）

●授業内容

1. コンクリート構造物の性能設計とは 2. 硬化コンクリートの性質と破壊 \ . コンクリートの
力学特性 \ . 収縮、クリープ \ . ひび割れと破壊力学 \ . コンクリートの構成則
 \ 3. コンクリート部材の破壊とその評価 \ . 曲げ破壊するはりの評価とその設計 \ . せ
ん断破壊するはりの評価とその設計 \ 4. 最近のコンクリート技術と高性能コンクリート（繊維
補強コンクリートなど）

●教科書

コンクリートのひび割れと破壊の力学（技報堂出版、三橋、六郷、国枝編著）

●参考書

Fracture Process of Concrete(CRC, Van Hieer) 鉄筋コンクリートの解析と設計（丸善、吉川著）

●評価方法と基準

レポートの結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価
の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

<大学院：平成22年度以前入学者>

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

構造力学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	北根 安雄 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 柱と平板の座屈安定論、弾性床の上のはり理論について学ぶ。基礎方程式の導出方法およびその解法を理解することを目的とする。また、それらが実構造物の設計にどのように利用されているかを紹介する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、極限強度学、固体力学特論</p> <p>●授業内容 1. 柱の座屈 2. 平板のつり合い式 3. 長方形板のたわみ 4. 長方形板の座屈 5. 弾性床上の梁理論</p> <p>●教科書 なし。授業中にプリントを配布する。</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義中の質問を歓迎する。</p>		

固体力学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	北根 安雄 准教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 本講義では、固体の変形や運動を表現するのに必要な基礎的な知識を習得することを目的とする。線形弾性体を対象として、テンソルの基礎、応力やひずみの定義、ひずみ-変位関係、運動方程式や構成則を理解することにより、異なる変形や運動の数学的表現方法について学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造解析の基礎、構造力学、応用構造力学</p> <p>●授業内容 テンソル、応力、ひずみ、フックの法則</p> <p>●教科書 配布資料</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポートによる評価</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 講義中の質問を歓迎する。また担当者を訪問しての質問も歓迎する。</p>		

海洋力学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師	
<p>●本講座の目的およびねらい 沿岸域における有振幅波の非線形挙動とその機構について講義する。達成目標 1. 海域流動の支配方程式を理解し、説明できる。 2. 長波および長波性の波の非線形理論を理解し、説明できる。 3. 津波と高潮の違いおよびその発生メカニズムを理解できる 4. ラディエーション応力とレイノルズ応力を説明できる。 5. 波平均量の保存則を誘導・説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 1. 海域流動の支配方程式 2. 長波及び長波性の波の非線形理論 3. 津波と高潮 4. ラディエーション応力とレイノルズ応力 5. 波平均量の保存則</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 岩田好一「役にたつ土木工学1 海岸環境工学」(朝倉書店)、川崎浩司「土木・環境系コアテキストシリーズD-4 沿岸域工学」(コロナ社)</p> <p>●評価方法と基準 レポートあるいは試験により目標達成度を評価し、60点以上を合格。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 来室、メールによる質問で対応。川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp)、中村 (747-6519 or 4634, tnakamura@nagoya-u.jp)</p>		

海工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 特任講師	
<p>●本講座の目的およびねらい 構造物と波の相互作用問題とそれを含む平面波浪場の特性について講義する。また、最近広く利用されている数値波動水槽についてその基礎を講義する。</p> <p>達成目標: ・回折問題を理解し、説明できる。 ・減衰定常波を含む波動場を理解し、説明できる。 ・浮体の動的応答を理解し、説明できる。 ・数値波動水槽の基礎を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 海洋力学特論</p> <p>●授業内容 ・回折理論(直立円柱、軸対象構造物) ・ポテンシャルと境界要素法 ・グリーン関数と数値解法 ・浮体の動揺と波浪応答 ・数値波動水槽の基礎と応用</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 波と漂砂と構造物: 榎本亨編著, 技報堂出版; 海岸波動: 土木学会海岸工学委員会, 土木学会</p> <p>●評価方法と基準 期末試験もしくは課題のレポートにより判断し、60%以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

——流域圏管理科学特論 (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授	

- 本講座の目的およびねらい
流域・河川の管理・保全に関する、多くの学際領域を含んだ技術・学術分野での新しい成果を体形立てて学ぶ。達成目標: 1. 流域・河川管理の基本的な考え方を理解する。2. 流域・河川の各管理目的に応じた流域管理の考え方と、新しい技術・学術の成果について理解し、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
河川工学, 流域水文学, 開水路水理学, 水理学演習, 応用水理学演習
- 授業内容
1. 流域・河川管理の基本的な考え方: 2. 治水と流域管理: 3. 利水と水循環管理: 4. 水系の土砂管理: 5. 生態系と流域管理
- 教科書
プリントを配布する。
- 参考書
必要に応じて、指示する。
- 評価方法と基準
期末試験(50%)とレポート(50%)による評価。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——河川計画・河道設計学特論 (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	戸田 祐嗣 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
河道計画および河道設計の基本的な方法と、近年問題となっている事柄について講義する。
- バックグラウンドとなる科目
河川工学, 流域水文学, 流れの力学, 開水路水理学,
- 授業内容
1. 河川流の水利 2. 植生を有する流れ \ 3. 物質の輸送 \ 4. 流砂の形態 \ 5. 河川地形の解析
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——地盤工学特論 (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	山田 正太郎 准教授 非常勤講師 (基盤)	

- 本講座の目的およびねらい
境界値問題を数値的に解く手法を習得する。
地盤工学上の問題を、計算工学的手法を応用して解決する方法を習得する。
最新の地盤工学上の問題とその解決方法を把握する。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論, 地盤力学特論, 数値解析学特論, 地盤解析学演習
- 授業内容
微分方程式と数値解法
有限要素法概論
地盤工学への有限要素法の適用
地盤工学の最前線
- 教科書
特になし
- 参考書
特になし
- 評価方法と基準
課題レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——地盤力学特論 (2.0単位)——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授 榎尾 正也 寄附講座准教授 非常勤講師 (基盤)	

- 本講座の目的およびねらい
繰返し人工粘土および自然堆積粘土の水～土連成力学挙動, 塑性力学の基礎を習得して, 地盤材料の力学挙動を弾塑性力学に基づいて把握する。次に, その応用として, その力学挙動を記述する弾塑性構成モデルを誘導し, 構成モデルに基づいて地盤材料の力学挙動を説明する。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論
- 授業内容
1. 繰返しおよび自然堆積粘土の水～土連成力学挙動を説明できる。
2. 塑性力学の基礎の習得と, 地盤材料への適用ができる。
3. 地盤材料に関する弾塑性構成モデルの誘導とその特徴を理解し, 説明できる。
- 評価方法と基準
達成目標に対する評価の重みは同等である。
期末試験70%、課題レポートを30%で目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
評価方法:
S: 100-90点, A: 89-80点, B: 79-70点, C: 69-60点, F: 59点以下
- 履修条件・注意事項
特になし
- 質問への対応
担当教員連絡先: 内線 4 6 2 2 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤動力学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授 非常勤講師 (基盤)

●本講座の目的およびねらい
実際の地震時の地盤の被害状況(液状化)などについて把握するとともに、地震時などの地盤の繰返し応答特性など、地盤動力学に関する基礎的事項および発展的内容を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
連続体力学、土質力学、地盤解析学特論、地盤解析学演習

●授業内容
1. 地盤の被害について 2. 質点・質点系の振動メカニズム \ 3. (1相系1次元) 連続体(弾性)の振動メカニズム \ ダランベールの解、混合問題、フーリエの解など \ 4. 連続体力学の基礎的事項の復習 \ 5. 水~土2相系の動的問題の捉え方(混合体理論、支配方程式等)

●教科書
必要に応じて随時資料を配布する。

●参考書
連続体力学入門(田村武著、朝倉書店)、地盤工学ハンドブック(西村直志執筆箇所、地盤工学会)

●評価方法と基準
口頭試験: 60%、レポート: 40%

●履修条件・注意事項

●質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

交通工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい
自動車交通は今日の社会経済活動を支える重要な輸送手段であるが、エネルギー消費量や環境負荷の大きな部分を占めており、これらは交通の制御、運用など各種の交通管理いかにより大きく左右されることとなる。本講義では、交通流の性質や交通渋滞のメカニズム、道路幾何構造と交通容量、環境負荷、エネルギー消費等との関係を理解し、効果的な交通制御、運用などの各種交通管理手法について解説する。なお本講義は、外国人留学生聴講者がいる場合には英語で行う。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、交通論、社会資本計画、都市・国土計画

●授業内容
1. 交通工学の位置づけと道路交通の実務・関連法規 2. 交通調査 \ 3. 巨視的交通流現象 \ 4. 微視的交通現象 \ 5. 交通容量と交通渋滞 \ 6. 道路計画とサービス水準 \ 7. 交差部の計画と設計 \ 8. 交通信号制御 \ 9. 交通マネジメントと新技術の適用

●教科書
特になし

●参考書
- (社)交通工学研究会(編)、「道路交通技術必携」、(財)建設物価調査会、東京、2007。 - 越正毅(編著)、「交通工学通論」、技術書院、東京、1989。

●評価方法と基準
試験またはレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	森川 高行 教授	山本 俊行 教授

●本講座の目的およびねらい
社会資本整備の意義と目的を明らかにし、その計画策定手法について講述する。達成目標は、公共経済学について説明できること、および、不確実性の考慮も含め評価と意思決定の方法を問題に適した形で適用し、適切な結果を導くことが出来ること。

●バックグラウンドとなる科目
社会資本計画学

●授業内容
1. 社会資本の概念と種類
2. 公共経済学(社会的厚生とパレート最適、消費者行動と需要曲線、生産者行動と市場均衡、市場の失敗、外部性、公共財)
3. 社会資本計画における意思決定
4. 評価と意思決定の手法(費用便益分析法と非市場財の便益評価、効用関数法と社会的厚生関数、多基準分析法とAHP)
5. 不確実性下の意思決定(期待効用理論、ゲーム理論とジレンマ構造、ベイズ論的決定理論と情報価値)

●教科書
特に指定しない。講義中にプリントを配布する

●参考書

●評価方法と基準
レポートと筆記試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応
質問がある場合には、なるべく授業中に質問して解決すること。授業時間外では特に定まったオフィスアワーは設けず、電子メールで質問およびアポイントメントを受け付ける。

担当教員連絡先: 内線
(森川) 3564 morikawa@nagoya-u.jp
(山本) 4636 yamanoto@civil.nagoya-u.ac.jp

都市計画特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	加藤 博和 准教授	

●本講座の目的およびねらい
都市域における人間活動が都市・地球環境に及ぼす影響メカニズムに関して、交通体系・産業構造・ライフスタイルによる環境負荷発生量の違いを定量的に評価する方法論と、環境負荷抑制に効果的な施策手法を中心に講述する。さらに、都市・地球環境面からの制約を考慮した都市空間計画・交通計画や、それを支援する財政システムのあり方について探求させる。

●バックグラウンドとなる科目
社会資本計画、都市・国土計画、交通論

●授業内容

- 「何も手を打たなければ都市は生き残れない」
・様々な制約と、その下で都市マネジメントに求められる方向性
- 「都市でどのような問題が起こっているのか?」
・都市活動と各種問題との関係に関する経済学・財政学アプローチ
- 「都市成長は悪か?」
・都市成長に伴うモータリゼーションやライフスタイル変化が及ぼす影響
- 「既往の道具立てで都市の諸問題をどこまで分析できるか?」
・交通システムや都市分析手法を環境問題検討に適用する方法
- 「21世紀型都市政策とはどのようなものか? 何をすべきか?」
・環境に配慮した持続可能な都市・交通計画のあり方

●教科書
特になし

●参考書
特になし

●評価方法と基準
レポート(30%)および最終発表会(70%)
<平成23年度以降入・進学者>
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
<平成22年度以前入・進学者>
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応
E-Mailにて対応する

基礎情報学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	伊藤 義人 教授	

- 本講座の目的およびねらい
1. 土木分野における情報の既往の利用方法について理解する。 2. 今後の土木分野において期待される情報システムの利用について理解する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
1. 土木と情報 2. 情報システムとは \ 3. GIS \ 4. CG \ 5. 施工管理 \ 6. プロジェクト
- 教科書
教科書は設定しない。適宜、資料および関係する論文を配布する
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
授業への参加の程度を考慮し、定期的な提出を求めるレポートにより評価を行なう。一部プレゼンテーションを行う。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中に対応する。

都市基盤維持管理学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	鎧石 和雄 教授	判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
鋼構造学やコンクリート工学で学んだ基礎知識を総合的に復習するとともに、その重要な応用分野として、道路や橋梁などの社会基盤施設を対象とした維持・管理、補修・補強について講述する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、鋼構造工学、コンクリート構造の基礎知識
- 授業内容
1. 社会基盤施設の保全に関する現状と課題・2. 社会基盤施設の検査、点検技術、管理体制：3. 非破壊検査技術とその適用事例；4. 耐久性評価手法；5. 補修・補強技術とその適用事例
- 教科書
なし
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

途上国開発特論Ⅰ (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	林 希一郎 教授	

- 本講座の目的およびねらい
途上国の社会資本整備に必要となるべき組織、人材となるべく、途上国の開発に伴う持続可能な開発論、環境管理論、国際協力論について基礎的事項を理解し、応用力を身に付け、総合的に判断できる視点を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
・持続可能な開発・途上国の環境資源問題・国際環境管理論1（国際条約）・国際環境管理論2（国際機関の役割）・国際協力
- 教科書
授業中にプリントを配布
- 参考書
授業中に適宜指示する。
- 評価方法と基準
リアクションペーパー及びレポートで評価し、60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中またはメールにて対応。

途上国開発特論Ⅱ (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	各教員 (社会基盤)	

- 本講座の目的およびねらい
途上国の社会資本整備に必要となるべき組織、人材となるべく、途上国の社会資本整備のための設計、維持管理、運用論を修得し、途上国の災害・環境管理論について理解する。
- バックグラウンドとなる科目
特になし
- 授業内容
1. 災害リスクマネジメント
2. 水資源・流域管理
3. 沿岸域管理
4. インフラ整備
5. 途上国のインフラ整備プロジェクト
- 教科書
なし
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

低炭素都市学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	谷川 寛樹 教授 一ノ瀬俊明 特任教授 Shobhakar Dhakal 特任准教授	

●本講座の目的およびねらい
都市の開発整備の中に地球温暖化防止を組み込んでいくことを目指して、低炭素型都市づくりのための政策・計画、技術、制度について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
環境社会システム工学

●授業内容
1. 地球の気候システム: 2. 地球温暖化とは: 3. 気候変動と人間の歴史: 4. 経済、エネルギー、環境、IPCC AR4: 5. 都市環境管理と計画: 6. 都市の活動とエネルギー消費: 7. 都市の形、土地利用とエネルギー消費: 8. 交通とエネルギー消費: 9. 街区、建物とエネルギー消費: 10. ヒートアイランド現象: 11. 生活とエネルギー: 12. 都市シミュレーター

●教科書
●参考書
井村秀文著「環境問題をシステムの的に考える一記述する情報に踊らされないために」

●評価方法と基準
毎回の講義における小テスト (50%) とレポート (50%)

●履修条件・注意事項
●質問への対応
Contact to Prof. Tanikawa
Email tanikawa@nagoya-u.jp

水・廃棄物政策論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授	

●本講座の目的およびねらい
水質汚染と廃棄物は今日の私たちの社会が直面する重大な環境問題です。水・廃棄物の効果的な管理には、関連する規則、政策、方針、及びこれらを管理する機関が不可欠です。この科目では、法的、政策的、さらに制度的枠組みに焦点を当て、水・廃棄物管理における課題を紹介します。

●バックグラウンドとなる科目
水・廃棄物工学、環境移動現象論、流域圏管理学特論

●授業内容
1. 地球規模の水問題
2. 水質管理
2.1 水質汚染源
2.2 水質基準
2.3 ポイント・ノンポイント汚染源対策
3. 水量管理
3.1 水使用・水利権
3.2 ダム・その他洪水調節施設
4. 湖沼: 水資源管理問題の典型
5. 廃棄物管理

●教科書
プリントを配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
レポート (50%)、期末試験 (50%) の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以て期末試験の受験資格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
質問への対応: 講義終了時に対応する。担当教員連絡先: 内線 6495victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp

生物多様性保全政策概論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	(未定)	

●本講座の目的およびねらい
生物多様性の保全の全体像を理解する。: 1 生物多様性の状態を把握できる。: 2 生物多様性の損失の原因を理解できる。: 3 保全・利用・利益配分の政策手段の説明と理論的正当化ができる。

●バックグラウンドとなる科目
生物資源管理政策論、生物資源管理プロジェクト論、生物資源管理学演習

●授業内容
1 現存データに基づく生物多様性の現状: 2 自然と社会の相互作用における生物多様性の損失の原因: 3 再生可能資源の最適利用の理論: 4 費用便益分析: 5 資源の経済価値評価手法: 6 生物多様性条約の要点

●教科書
特に指定しない。

●参考書
Secretariat of the Convention on Biological Diversity (2000) Sustaining Life on Earth, MacLaurin, J. and Sterelny, K. (2008) What is biodiversity? The University of Chicago Press. 詳細は、別途配布される「国際環境リサーチ育成プログラム」のシラバス教材集を参照。

●評価方法と基準
成績評価は、期末試験にて行う。(100%)。履修条件・注意事項: 事前の参考書購読は必須。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
質問への対応: 講義時間内に対応。担当教員連絡先: 内線 6497 miwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp

環境資源論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	(未定)	

●本講座の目的およびねらい
環境問題について、「資源」という観点から、理論的枠組と、現実的なモデルを学習する。達成目標 1 資源利用に関する最適利用の理論的枠組を理解できる。 2 3Rについて、地域の実例を知る。

●バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論、生物多様性保全政策概論

●授業内容
以下の内容について、3人の教員により順次、講義が行われる。1. 再生可能資源と非再生可能資源の最適利用の考え方、2. 主に、資源に関する国際協力の考え方、3. 3Rのモデルと理論

●教科書
講義ごとに資料を配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
レポートによって評価する (100%)。履修条件は特になし。講義は、英語で行われる。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
担当教員連絡先: 青教授 内線 6411 blue@rep.provost.nagoya-u.ac.jp
渡邊特任教授 6497 miwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp
田和特任教授 6494 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp

—— 気候変動政策論 (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	(未定)	

- 本講座の目的およびねらい
気候変動（地球温暖化）に関して、対策（政策・制度）などについての知識を習得する。達成目標 \ 1 気候変動の意味と科学的根拠を理解できる。 \ 2 気候変動枠組み条約の内容と関連制度に関して説明できる。 \ 3 途上国を中心とした関連対策をイメージできる。
- バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論
- 授業内容
気候変動に関する研究を行っている国際的機関から講師を招聘して、テーマごとに異なる講師により実施する（予定）。 1 地球環境問題における気候変動の位置づけ \ 2 気候変動枠組み条約と京都議定書 \ 3 目標達成のための政策手段 \ 4 途上国と気候変動問題 \ 5 インターリンクの考え方
- 教科書
講義ごとに資料を配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法及び基準
レポート（100%）。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
担当教員連絡先：渡邊特任教授 6 4 9 7 niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp

—— 水・廃棄物工学 (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授	

- 本講座の目的およびねらい
水質汚染と廃棄物は今日の私たちの社会が直面する重大な環境問題です。本講義では、飲料水の供給、水域汚染の防止、そして廃棄物管理に適用される多種多様な技術と対策について学びます。
- バックグラウンドとなる科目
水・廃棄物政策論、環境移動現象論、流域圏管理科学特論
- 授業内容
1. 水循環・飲料水の供給 2. ポイント・ノンポイント汚染源及び汚染負荷量推定 \ 3. ポイント・ノンポイント汚染源対策 \ 4. 廃棄物管理 \
- 教科書
プリントを配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法及び基準
レポート（50%）、期末試験（50%）の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以て期末試験の受験資格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：講義終了時に対応する。担当教員連絡先：内線 6 4 9 5 victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp

—— 生物資源管理政策論 (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	(未定)	

- 本講座の目的およびねらい
生物資源とその管理政策について、内容・手法・政治的背景について理解する。 1 生物遺伝資源の内容を正確に理解できる。 \ 2 「ABS」と呼ばれる問題を説明できる。 \ 3 生物遺伝資源管理の実例を、理論的正当化を含めて説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
生物多様性保全政策概論、生物資源管理プロジェクト論、生物資源管理学演習
- 授業内容
1 生物遺伝資源の内容 2 ABS問題の背景と現状 \ 3 「伝統的知識」の問題 \ 4 生物資源利用プロジェクトの事例
- 教科書
特に指定しない。
- 参考書
参考書指定の詳細は、別途配布される「国際環境リーダー育成プログラム」のシラバス教材集を参照のこと。
- 評価方法及び基準
成績評価は、事例に関するプレゼンテーションとそれに関するレポートにより行う。（プレゼンテーション50%、レポート50%）。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：講義時間内に対応。担当教員連絡先：内線 6 4 9 7 niwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp

—— 生物資源管理プロジェクト論 (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	(未定)	

- 本講座の目的およびねらい
生物資源管理プロジェクトは、多くの実施上の問題を抱えている。本講義では実施されている生物資源管理に関するプロジェクトの事例を学ぶとともに、プロジェクトの評価分析手法を理解することにより、プロジェクトの実施において工夫されている点や課題を抽出し、プロジェクトの諸問題の解決の方策について考察する。 達成目標 \ 1. 生物資源管理の重要性、課題を理解し、説明できる。 \ 2. プロジェクト評価手法に基づき、具体的条件を評価し、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
環境資源論、生物多様性保全政策概論、生物資源管理政策論
- 授業内容
1. 生物資源管理の重要性（保全と開発） 2. 生物資源管理のアプローチと視点 \ 3. 各国の取り組み事例のレビュー（プレゼンとディスカッション） \ 4. JICAプロジェクトの協力の枠組み \ 5. プロジェクト管理手法
- 教科書
毎回プリントを配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法及び基準
前述の授業内容の3. 及び6. のプレゼンとディスカッションの内容を評価
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：講義終了時に対応する。担当教員連絡先：内線 6494 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp

環境産業システム論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	(未定)	

●本講座の目的およびねらい
環境活動や環境技術に優位性を持つ、主に中部地域の企業から、直接講義を受ける。:達成目標
:1 環境活動と環境技術の実例を理解する。:2 実例を理解しつつ、関連科目である環境資源論で履修した内容とどのように結びつくのか、理論的な大きな枠組みで考えることができる。

●バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論、生物多様性保全政策概論

●授業内容
1 企業による講義 (7回前後を予定している) 2 これらの講義内容によるプレゼンテーション/ディスカッション/ワークショップ

●教科書
講義ごとに資料を配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
プレゼンテーションやディスカッションの内容で評価 (100%)。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
NUGELP事務室 内線6044

固体力学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	伊藤 義人教授	北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

●本講座の目的およびねらい
弾性論、塑性論のアドバンスドコース

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 弾性論, 2. 塑性論

●教科書
授業中に資料を配布する。

●参考書
なし

●評価方法と基準
演習問題解答の発表およびレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
授業中の質問を歓迎する。担当教員を訪問してもよい。E-mailによる質問を最も歓迎する。

複合材料学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中村 光 教授	國枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
本講義の前半では、コンクリート構造物の維持管理の概要や補修、補強をとおして、土木材料の特性や、複合部材としての力学挙動の基礎を学ぶ。
本講義の後半では、実際に身近な材料で補強等を行ったコンクリートを作製し、コンテスト形式でその補強効果などを確認する。

●バックグラウンドとなる科目
コンクリート構造学特論:複合材料学

●授業内容
1.コンクリート構造物の維持管理と補修、補強: ・コンクリート構造物の劣化と維持管理 ・コンクリート構造物の補修、補強方法 ・新しい建設材料とその応用
2.RCはりの補強コンテスト: ・補強のコンセプトとプレゼンテーション ・試験体の作製 ・破壊試験とその評価

●教科書
教科書は特にないが、各講義で資料が配布される。

●参考書

●評価方法と基準
レポートの結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院:平成23年度以降入学者>
100~90点:S, 89~80点:A, 79~70点:B, 69~60点:C, 59点以下:F
<大学院:平成22年度以前入学者>
100~80点:A, 79~70点:B, 69~60点:C, 59点以下:D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

海工学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授	川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
沿岸域における現象について、問題を見いだし、解決するための方法を考え、自ら解決するための能力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論, 海工学特論

●授業内容
沿岸域で問題となっている現象を取り上げ、それを課題に、問題解決の方法、手法を整理し、その問題を解決するための演習を行う。そのため、毎年複数の課題を提示し、グループ毎にその課題に取り組む。毎週グループ毎にプレゼンを行い全員でディスカッションをしながら解を見いだしていく演習を行う。

●教科書
特に指定しない

●参考書
特に指定しない

●評価方法と基準
レポートと口頭発表により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
演習時、来室等に対応。連絡先:水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp), 中村 (747-6519 or 4634, tnakamura@nagoya-u.jp)

—— 流れ・地形解析学演習 (1.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
 河道の流れ・地形の解析や、流域の水・物質輸送、生物現象に関する解析手法に関する演習を行う。
 1. 河道の流れや流域水輸送の解析手法の理論を理解する。 2. 河道の流れや流域水輸送の数値解析モデルを用いて、想定した条件に応じた流れの計算を行い、表示できる。 3. 生物現象の数値モデルの理論を理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 流れの力学 (水理学)、開水路水理学、流域水文学、河川工学
- 授業内容
 1. 河道の流れ・地形解析の理論と解析手法 2. 地下水・土壌中の流れの理論と解析手法 3. 生物現象の数値モデルに関する理論
- 教科書
 プリントを配布する。
- 参考書
 必要に応じて指定する
- 評価方法と基準
 レポート(100%)
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—— 地盤解析学演習 (1.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 楠尾 正也 寄附講座准教授 野々山 栄人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
 連続体力学と有限変形解析の基礎理論を学習させ、水-土骨格2相系の弾塑性有限要素解析の基礎を習得する。また、砂、粘土を表す材料定数を設定し、各種地盤材料の応答も理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析特論
- 授業内容
 1. 支配方程式の弱形式化: 2. 土骨格の弾塑性構成: 3. 砂、粘土の応答
- 教科書
 プリントを配布する
- 参考書
 特になし
- 評価方法と基準
 口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 担当教員連絡先: 内線4622 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

—— 地盤動力学演習 (1.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教	

- 本講座の目的およびねらい
 地盤の動的・振動問題について、地盤動力学特論で修得した事項をベースにして、観測ならびに演習形式で具体的な簡単な問題に対するプログラミングを実施し、これらを通じて動的問題に対する基礎的な概念を深く理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 土質力学、地盤工学、耐震工学、連続体力学、地盤動力学特論、数値解析特論
- 授業内容
 1. 現場観測: 2. 差分法を用いた比較的な簡単な地盤の動的問題に対するプログラミング: 3. 各種例題による動的問題の把握
- 教科書
 必要に応じて随時資料を配布する。
- 参考書
- 評価方法と基準
 レポート: 100%
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 社会基盤計画学演習 (1.0単位) ——

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	加藤 博和 准教授 三輪 富生 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
 都市計画、交通計画、地域計画などにおけるシステム分析手法について実習を行う。目標は、重回帰分析、主成分分析、判別分析、離散選択モデルについて理解し、与えられたデータに対して適した手法を選択できること。その上で、正しい結果を導き、適切な結果の解釈ができること。
- バックグラウンドとなる科目
 確率・統計学や数理計画法などの分析手法についてある程度知識があることが望ましい。
- 授業内容
 1. データ解析のための統計分析手法とツール
 2. 重回帰分析 基礎
 3. 重回帰分析 応用 (モデルの特定化・誤差項の問題、一般化最小二乗法)
 4. 主成分分析
 5. 判別分析
 6. 離散型選択モデル 理論
 7. 離散型選択モデル 実践
- 教科書
- 参考書
 河上省吾編著: 土木計画学, 鹿島出版会
 北村隆一, 森川高行, 佐々木邦明, 藤井聡, 山本俊行: 交通行動の分析とモデリング-理論/モデル/調査/応用-, 技報堂出版
 G.S. マダラ (和合肇訳著): 計量経済分析の方法, シーエービー出版
- 評価方法と基準
 レポート (すべて提出することを単位取得の要件とする)
 <平成23年度以降入・進学者>
 100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
 <平成22年度以前入・進学者>
 100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 授業時およびE-Mailにて受け付ける。

基盤情報学特設演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	伊藤 義人 教授 廣畑 幹人 助教	

●本講座の目的およびねらい
社会基盤システムに関連した情報システムの現状と将来について学ぶと共に、学術情報の検索・収集について演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
社会基盤システムに関連した大観情報の処理及び学術情報収集方法などについて演習を行う。

●教科書
ハンドアウトを配布する。

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
授業中に対応する。

社会基盤維持管理学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授	

●本講座の目的およびねらい
道路や橋梁などの社会基盤施設を対象として、維持・管理、補修・補強についての基礎知識を学習するとともに、既存構造物の長寿命化を実現する上での課題を見だし、それらを解決するための応用力、総合的に判断する能力を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

構造力学、鋼構造工学、コンクリート構造の基礎知識

●授業内容
道路や橋梁などの社会基盤施設において問題となっている現象を取り上げ、それらの原因を整理し、解決方法などについて演習を行う。

●教科書
適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
演習に取り組む姿勢にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
適宜対応する。

土壌環境保全学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染および廃棄物処理に関する研究を行うための基礎知識・方法を演習を通して理解する。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、化学、微生物学、水理学

●授業内容
土壌地下水汚染における水質解析法、微生物のハンドリング法、汚染物質の分析法、地盤中の物質輸送解析法等から選択した項目に関して演習を行う

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
演習レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義の後
または
個別対応 (あらかじめ電話・emailで決めた日時)

生物資源管理学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	後期 (未定)	
教員		

●本講座の目的およびねらい
生物多様性保全プロジェクトの設計・評価・合意形成について、実習を行う。:達成目標:1 生物多様性保全プロジェクト (生物資源を含む)の要素を提案できる。:2 事前の評価手法について、初歩的なレベルで実施できるようにする。:3 合意形成上の問題点を「体験」する。

●バックグラウンドとなる科目

生物多様性保全政策概論、生物資源管理政策論、生物資源管理プロジェクト論

●授業内容

バーチャルな生物多様性プロジェクトが課題として与えられ、これに関して以下のような実習を行う。1. プロジェクト要素の構成、2. 便益の算出と、簡単な費用便益分析、3. 異なる利害関係者を想定したロールプレイング

●教科書

講義ごとに資料を配布する。

●参考書

講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準

演習の成果によって評価する (100%)。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

担当教員連絡先: 渡邊特任教授 6 4 9 7 miwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp
田和特任教授 6 4 9 4 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp

グローバル研究インターンシップ (2.0単位)

科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	
開講時期2	
教員	(未定)

●本講座の目的およびねらい
国際環境人材育成プログラムの一環として、国内外の大学、研究機関、企業、政府機関・自治体等において研究、調査を実施し、実践的研究能力を修得することを目的とする。本インターンシップは、指導教員との緊密な連携で行う。研究テーマをもって、ORT (On the Research Training) として位置づける。具体的な期間・内容等詳細は、指導教員およびインターンシップ先の受入れ専門家と十分な相談の上決定する。

●バックグラウンドとなる科目
環境資源論、環境産業システム論、持続可能性と環境学、環境コミュニケーション、低炭素都市学、気候変動政策論、水・廃棄物政策論、水・廃棄物工学、生物多様性保全政策概論、生物資源管理政策論、生物資源管理プロジェクト論、途上国開発特論

●授業内容
国内外の大学、研究機関、企業、政府機関・自治体等における研究・調査学習

●教科書
グローバル研究インターンシップの手引き

●参考書
特になし

●評価方法と基準
評価は「合・否」で行う。指導教員および受入専門家による評価書、提出レポート・成果発表会での発表にもとづいて成績を評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

高度総合工学創造実験 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。

その目的およびねらいは、
1. 異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化、
2. 異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験、
3. 自己専門の可能性と限界の認識、
4. 自らの能力で知識を総合化することである。

●バックグラウンドとなる科目
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。従って、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」等の同様の産学連携教育関連科目の履修を強く推奨する。

●授業内容
異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)【週1日】にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。具体的な内容は次のHPを参照。
<http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html>

●教科書
特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●参考書
特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●評価方法と基準
実験の遂行、討論と発表会により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
原則、授業時に対応する。

研究インターンシップ1 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (4.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (6.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
研究インターンシップを受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (8.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

最先端理工学特論 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。シンポジウム形式の学術討論を通して、最先端理工学研究を学び、テーマとなる分野の最新動向を学び、議論する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

最先端理工学実験 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

- 本講座の目的およびねらい
工学における最先端研究の動向を実践をもって学ぶことを目的とし、その研究を行うために必要な高度な実験に関する知識と技術、プレゼンテーション技術を総合的に習得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
あらかじめ設定された実験（課題実験）あるいは受講者が提案する実験（独創実験）のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
演習（50%）、研究成果発表とレポート（50%）で評価する。100点満点で60点以上を合格とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

コミュニケーション学 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	古谷 礼子 准教授

- 本講座の目的およびねらい
母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
(1) ビデオ録画された論文発表を見る： モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ。(2) 発表する： クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する。(3) 討論する： クラスメイトの発表を相互に評価し合う： きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす
- 教科書
なし
- 参考書
(1) 「英語プレゼンテーションの技術」： 安田 正、ジャック ニクリン著： The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成： 口頭発表の準備の手続き」： 産能短期大学日本語教育研究室著： 凡人社
- 評価方法と基準
発表論文とclass discussion（平常点）の結果による
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

実践科学技術英語 (2.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい
英語で行われる自動車工学の最先端技術の講義を留学生とともに学ぶことによって、実践的な科学技術英語を習得するとともに、英語で小テーマについて発表し、議論することによって、プレゼンテーション技術を学ぶ。
- 達成目標
1. 英語で行われる自動車工学の講義を理解できる。
2. 技術的テーマについて取りまとめ、英語で説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
コミュニケーション学、科学技術英語特論
- 授業内容
1. 自動車産業の現状、2. 自動車開発のプロセス、3. ドライバ運転行動の観察と評価
4. 自動車の材料・加工技術 5. 自動車の運動・制御 6. 自動車の予防安全 7. 自動車の衝突安全 8. 車搭載組込みコンピュータシステム 9. 自動車における通信技術 10. 自動車開発におけるCAE活用状況 11. 自動車における省エネルギー技術 12. 環境にやさしい燃料と自動車触媒 13. リサイクル 14. 自動車工業における生産システム 15. 研究プロジェクト発表（2回に分けて行う）
- 教科書
毎回プリントを配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法と基準
評価方法：講義での出席と質疑（20%）、講義毎のレポート提出（20%）、グループ研究でのプレゼンテーション（30%）、グループ研究でのレポート提出（30%）
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

科学技術英語特論 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	非常勤講師（教務）

- 本講座の目的およびねらい
研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。
- バックグラウンドとなる科目
英語学に関する諸科目
- 授業内容
外国人教員による英語の講義
1. Simplicity and clarity in English
2. English grammar: Common problems
3. Readability I: Sentences and paragraphs
4. Readability II: Parallelism and other matters of style
5. Readability III: Writing scientific papers
6. Public speaking at international conferences
7. Email, CVs, and job applications
- 教科書
- 参考書
Students receive all printed materials for each lecture from the instructor. They also receive extensive annotated bibliographies of resources for academic, scientific, and technical English.
- 評価方法と基準
発表内容、質疑応答、出席状況
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

ベンチャービジネス特論Ⅰ (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な基本的な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示し、研究を生かしたベンチャービジネスを考える。

●バックグラウンドとなる科目
卒業研究、修士課程の研究

●授業内容

1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か —リスクとメリット—
2. 事業化と起業の知識と準備 —技術者・研究者として抑えるべきポイント—
3. 大学の研究から事業化・起業へ —企業における研究開発の進め方—
4. 事業化の推進 —事業化のための様々な交渉と市場調査—
5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野
6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野
7. 名大発の事業化と起業(3): バイオ、医療分野
8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野
9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野
10. まとめ

●教科書

「実践起業論 新しい時代を創れ!」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜資料配布
適宜指導

●参考書

「ベンチャー経営心得帳」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜指導

●評価方法と基準

レポート提出および出席

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論Ⅱ (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	永野 修作 准教授 枝川 明敬 教授

●本講座の目的およびねらい
前期Ⅰにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家と交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解する。受講の前編として、身近な起業化の例を講義する前期Ⅰを受講するのが望ましい。

●バックグラウンドとなる科目

ベンチャービジネス特論Ⅰ、卒業研究、修士課程の研究。経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。

●授業内容

1. 日本経済とベンチャービジネス
2. ベンチャービジネスの現状
3. ベンチャーと経営戦略
4. ベンチャーとマーケティング戦略
5. ベンチャーと企業会計
6. ベンチャーと財務戦略
7. 事例研究(経営戦略に重点)
8. 事例研究(マーケティング戦略に重点)
9. 事例研究(財務戦略に重点)
10. 事例研究(資本政策に重点: IPO企業)
11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位
12. ビジネスプラン 収益計画
13. ビジネスプラン 資金計画
14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ
15. まとめ

●教科書

講義資料を適宜配布する。

●参考書

適宜指導

●評価方法と基準

授業中に出席される課題

●履修条件・注意事項

●質問への対応

学外実習 A (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員(社会基盤)

●本講座の目的およびねらい
実務現場(計画・調査・設計・建設・維持・管理)での実習体験を通じて、実社会で役に立つ土木技術者に求められる資質を身につけ、どのような素養が実社会で必要とされ、大学で学んだことがどのように企業や官庁などで生かされるのかを理解する。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

実務現場における体験学習

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●評価方法と基準

評価は「合・否」で行い、以下の要件を満たしたものを「合」、そうでないものを「否」とする。
(1)原則として10日間または64時間以上の実習をうけること、(2)「実習証明書」において合の判定をうけること、(3)レポートを提出し発表会での発表を行うこと。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

国際プロジェクト研究 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員

●本講座の目的およびねらい
研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

研究室における研究活動

●教科書

特になし

●参考書

所属研究室の教官による評価、口頭発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

——国際プロジェクト研究 (3.0単位)——

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員

- 本講座の目的およびねらい
研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
研究室における研究活動
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
所属研究室の教官による評価、口頭発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——国際プロジェクト研究 (4.0単位)——

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員

- 本講座の目的およびねらい
研究プロジェクトの取り組みを通して、外国人学生との共同作業、問題解決方法を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
研究室における研究活動
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
所属研究室の教官による評価、口頭発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——国際協働教育特別講義 (1.0単位)——

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい
国際共同研究に必要な工学系の知識を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
自動車産業およびエネルギー産業の実情を元に、技術者に必要な知識・問題解決を学ぶ。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートおよび教官による評価
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

——国際協働教育外国語演習 (1.0単位)——

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	演習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)

- 本講座の目的およびねらい
国際共同研究に必要な英語力を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
英語のスピーキングとプレゼンテーション技術に集中した講義
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
口頭発表と教官による評価
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

構造工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学, 耐震工学の専門書や文献などを選び, 輪講する.
- バックグラウンドとなる科目
構造力学, 応用構造力学, 極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する.

構造工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学, 耐震工学の専門書や文献などを選び, 輪講する.
- バックグラウンドとなる科目
構造力学, 応用構造力学, 極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する.

構造工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学, 耐震工学の専門書や文献などを選び, 輪講する.
- バックグラウンドとなる科目
構造力学, 応用構造力学, 極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する.

構造工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学, 耐震工学の専門書や文献などを選び, 輪講する.
- バックグラウンドとなる科目
構造力学, 応用構造力学, 極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する.

構造工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

●本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など

●授業内容

1. 構造力学：2. 構造安定理論：3. 耐震設計理論

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー中に対応する。

材料・形態学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容

1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinier and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書

Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書

特になし

●評価方法と基準

毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

<大学院：平成22年度以前入学者>

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料・形態学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容

1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinier and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書

Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書

特になし

●評価方法と基準

毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

<大学院：平成22年度以前入学者>

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料・形態学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容

1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinier and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書

Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書

特になし

●評価方法と基準

毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>

100~90点：S、89~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：F

<大学院：平成22年度以前入学者>

100~80点：A、79~70点：B、69~60点：C、59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料・形態学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中村 光 教授 園枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
<大学院：平成22年度以前入学者>
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中村 光 教授 園枝 稔 准教授

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの組成と化学的性質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Portland cement and its major phases
2. High temperature chemistry
3. The chemistry of portland cement manufacture
4. Properties of portland clinler and cement
5. Hydration of the calcium silicate phases

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
<大学院：平成22年度以前入学者>
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

海岸・海洋工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格

●履修条件・注意事項
●質問への対応
セミナー時に対処。連絡先：水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp)、川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp)、中村 (747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp)

海岸・海洋工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
セミナー時に対処。連絡先：水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp)、川崎 (内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp)、中村 (747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp)

—— 海岸・海洋工学セミナー2C (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp）、中村（747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp）

—— 海岸・海洋工学セミナー2D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp）、中村（747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp）

—— 海岸・海洋工学セミナー2E (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 中村 友昭 特任講師

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@nagoya-u.jp）、中村（747-6519 or 4634, tnakanura@nagoya-u.jp）

—— 流域保全学セミナー2A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学

●授業内容

1. 河川・流域の整備・管理の理念：2. 河川・流域景観の構成：3. 流出・土砂生産：4. 河道のプロセス：5. 生態環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

流域保全学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念; 2. 河川・流域景観の構成; 3. 流出・土砂生産; 4. 河道のプロセス; 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

流域保全学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念; 2. 河川・流域景観の構成; 3. 流出・土砂生産; 4. 河道のプロセス; 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

流域保全学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念; 2. 河川・流域景観の構成; 3. 流出・土砂生産; 4. 河道のプロセス; 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

流域保全学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

- 本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学
- 授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念; 2. 河川・流域景観の構成; 3. 流出・土砂生産; 4. 河道のプロセス; 5. 生態環境評価の手法
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地盤環境学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。：
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
教科書については、年度初めに適宜選定する。
- 参考書
必要に応じてセミナーで紹介する
- 評価方法と基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：セミナー時に対応する。

地盤環境学セミナー2F (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎理の所在を理解する。：1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。：2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。：4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
連続体力学特論、地盤力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理：2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下：4. 泥岩のスレーキングとその対策：5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述：6. 地盤材料学
- 教科書
特になし
- 参考書
特になし
- 評価方法及び基準
セミナーでの口頭発表およびディスカッションにより、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応する。

国土防災安全工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎：2. 地盤構造物の変形・安定性：3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法：4. 地盤補強・改良工法の設計：5. 耐震工学の基礎：6. 地震入力：7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法及び基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎：2. 地盤材料の構成式：3. 地盤構造物の変形・安定特性：4. 軟弱地盤における地盤構造物の設計法：5. 地盤補強・改良工法の設計：6. 各種土木構造物の耐震設計理論
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法及び基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎：2. 地盤構造物の変形・安定性：3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法：4. 地盤補強・改良工法の設計：5. 耐震工学の基礎：6. 地震入力：7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法及び基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 国土防災安全工学セミナー2D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 国土防災安全工学セミナー2E (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 地圏環境保全学セミナー2A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	片山 新太 教授

- 本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。:達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を自分自身で見つけ理解し、説明できる能力を身につけることを目標とする。
- バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D
- 授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—— 地圏環境保全学セミナー2B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	片山 新太 教授

- 本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果を取り上げて、研究のアプローチを批判的に説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D
- 授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地圏環境保全学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明し、更に自分の考え方を提案できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明した後、自分の考え方を提案できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

●本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●評価方法と基準

レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中村 英樹 教授 山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授 浅野 美帆 助教

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

インフラ技術開発・移転セミナー2A (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 1年前期
 教員 Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

インフラ技術開発・移転セミナー2B (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 1年後期
 教員 Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

インフラ技術開発・移転セミナー2C (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 2年前期
 教員 Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

インフラ技術開発・移転セミナー2D (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 2年後期
 教員 Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

_____ インフラ技術開発・移転セミナー 2E (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	3 年前期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 檜尾 正也 寄附講座准教授

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

_____ 社会基盤維持管理学セミナー2A (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	1 年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的にに取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

_____ 社会基盤維持管理学セミナー2B (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	1 年後期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的にに取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

_____ 社会基盤維持管理学セミナー2C (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2 年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的にに取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

国際環境協力セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	林 希一郎 教授

- 本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。
- バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I, II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D
- 授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	林 希一郎 教授

- 本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。
- バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I, II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A
- 授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年前期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I, II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年後期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I, II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	3年前期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I, II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

実験指導体験実習 1 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立つ。

●バックグラウンドとなる科目
特になし。

●授業内容
高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

ただし、授業時に適宜参考となる文献・資料を紹介する。

●評価方法と基準
とりまとめと指導性により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業時に対応する。

実験指導体験実習 2 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、後期課程学生が実験指導を行うことを目的とする。この研究指導を通じて、研究・教育及び指導者としての総合的な役割を果たすとともに、自身の指導者としての実践的な養成に役立てる。

●バックグラウンドとなる科目
特になし。

●授業内容
最先端理工学実験において、担当教員のもと、課題研究および独創研究の指導を行う。成果のまとめ方（レポート作成指導）、発表に至るまで担当の学生の指導者的役割を担う。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
特になし。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項
特になし。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項
特になし。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (4.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項
特になし。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (6.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい

就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

●評価方法と基準

企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる

●履修条件・注意事項

●質問への対応

研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (8.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい

就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

●評価方法と基準

企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。